

日常の劇場

文化の道に活動の層を重ねる

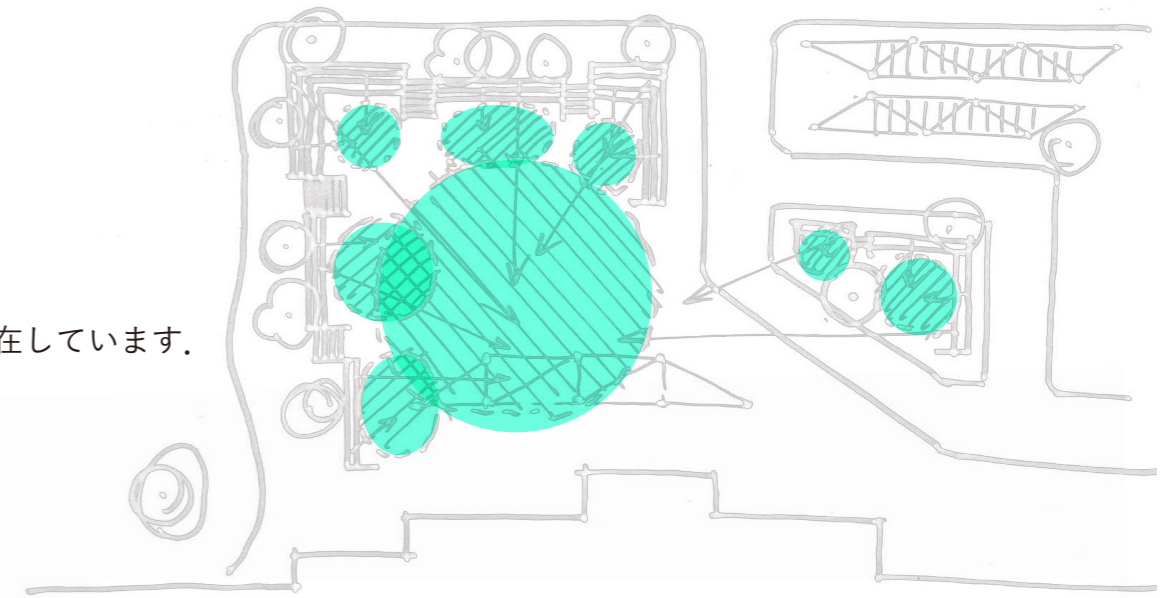
様々な文化的施設を結ぶミュージアムロードに、日常の活動自体が舞台のように展開する劇場的空間を提案します。

地形と街に劇場を発見する

山と海の間にある斜面に出来上がった神戸の街には、既に様々な場所に“遠くを眺める”、“近くを望む”といった劇場的空間が存在しています。

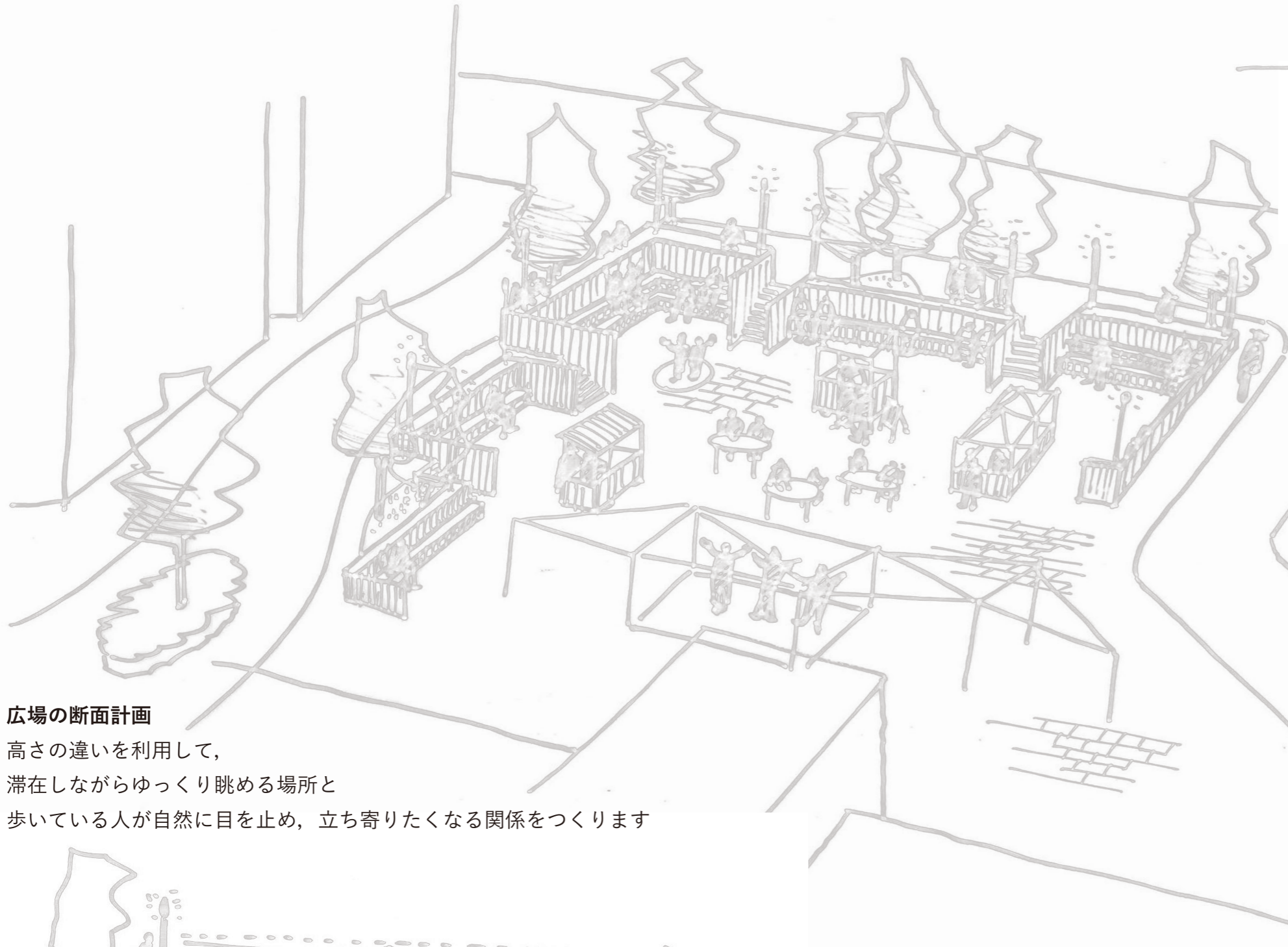
また、南北と東西を行き交う道路や線路の交差する場所にも、“見下ろす”、“見上げる”といった行為が生まれています。

そのような劇場的空間の発見から、新たな文化の土台となる「日常の劇場」を提案します。



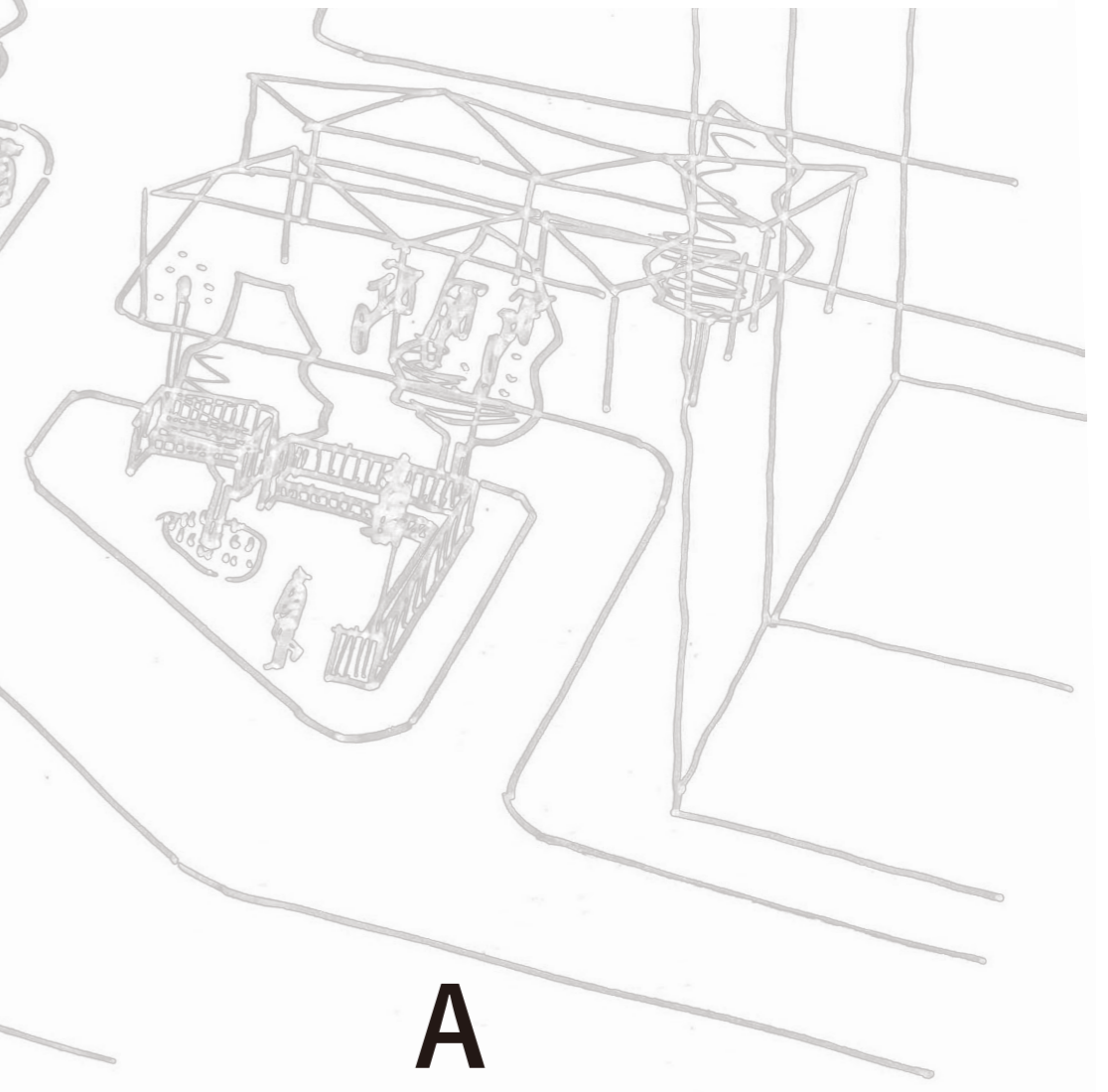
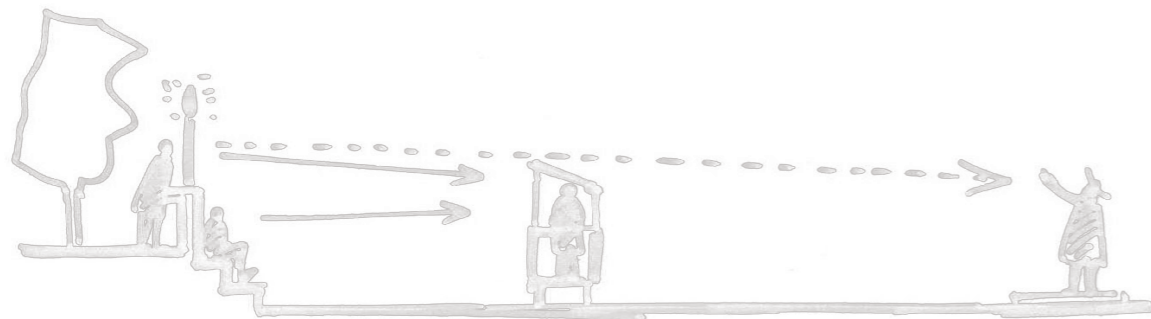
広場の平面計画

広場を囲うように大きさの様々な劇場をたくさんつくります
小さな劇場が集まって、広場全体で大きな劇場となり、
同時に起こる活動が重なって、広場全体で日常の舞台となります



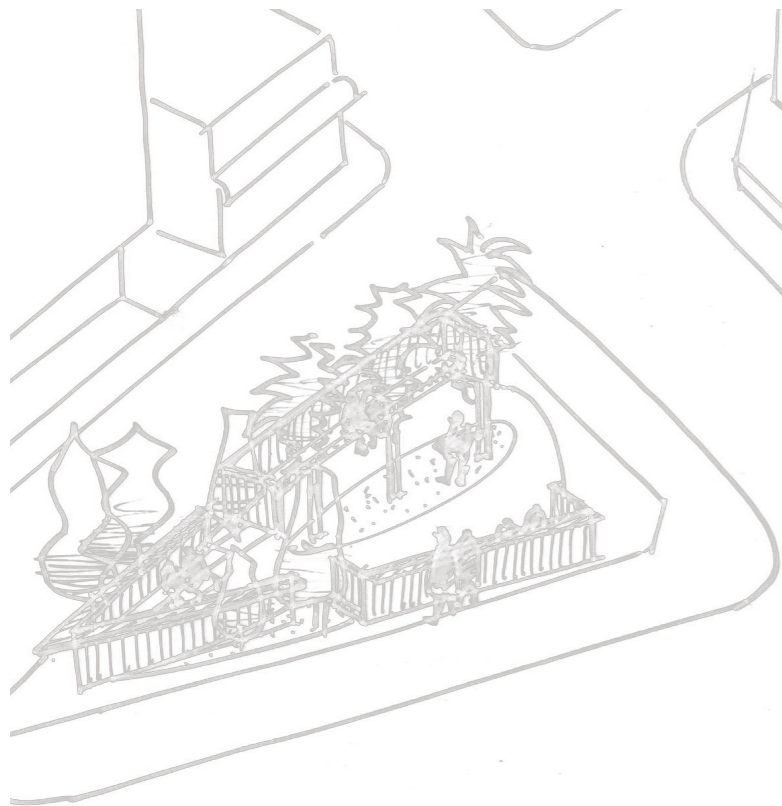
広場の断面計画

高さの違いを利用して、
滞在しながらゆっくり眺める場所と
歩いている人が自然に目を止め、立ち寄りたくなる関係をつくります



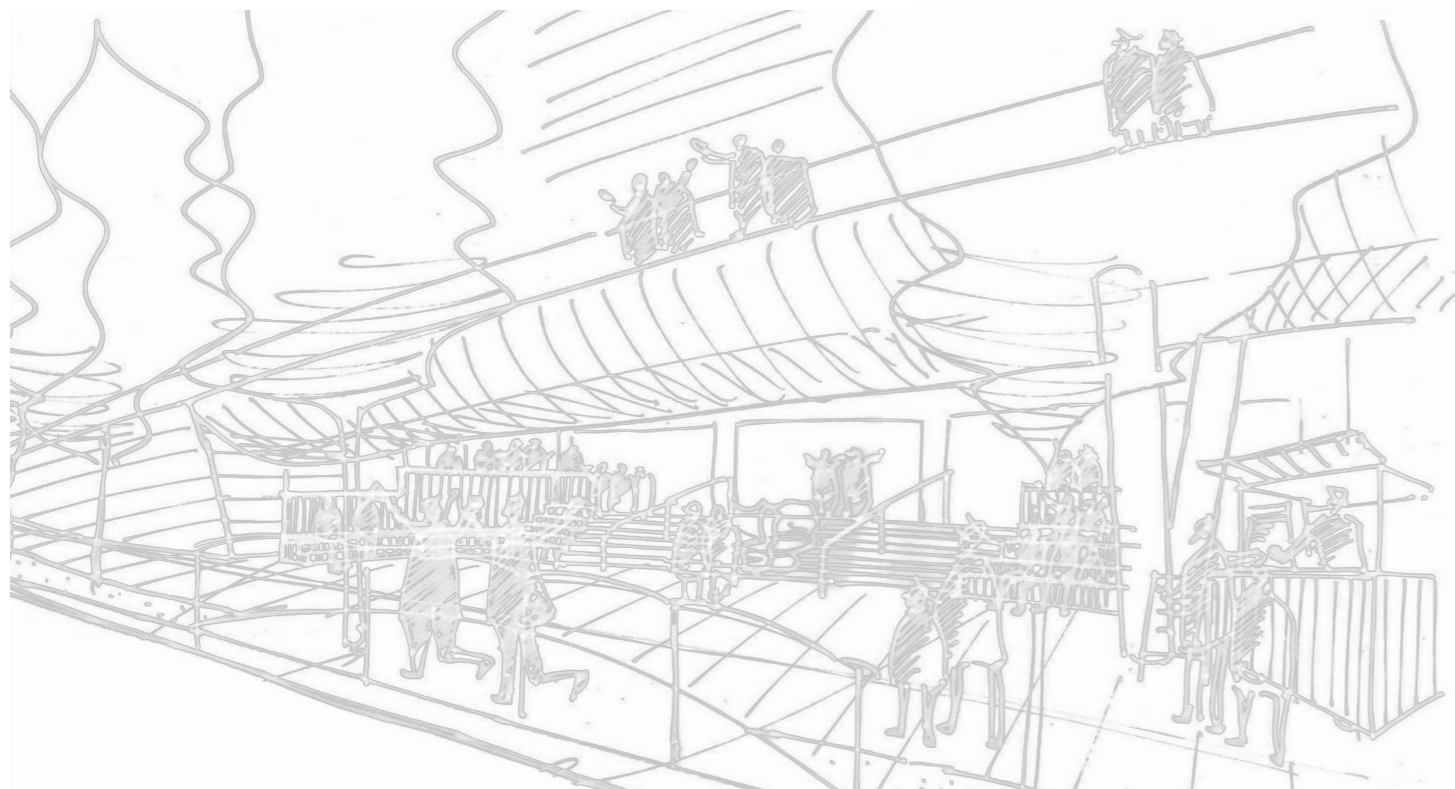
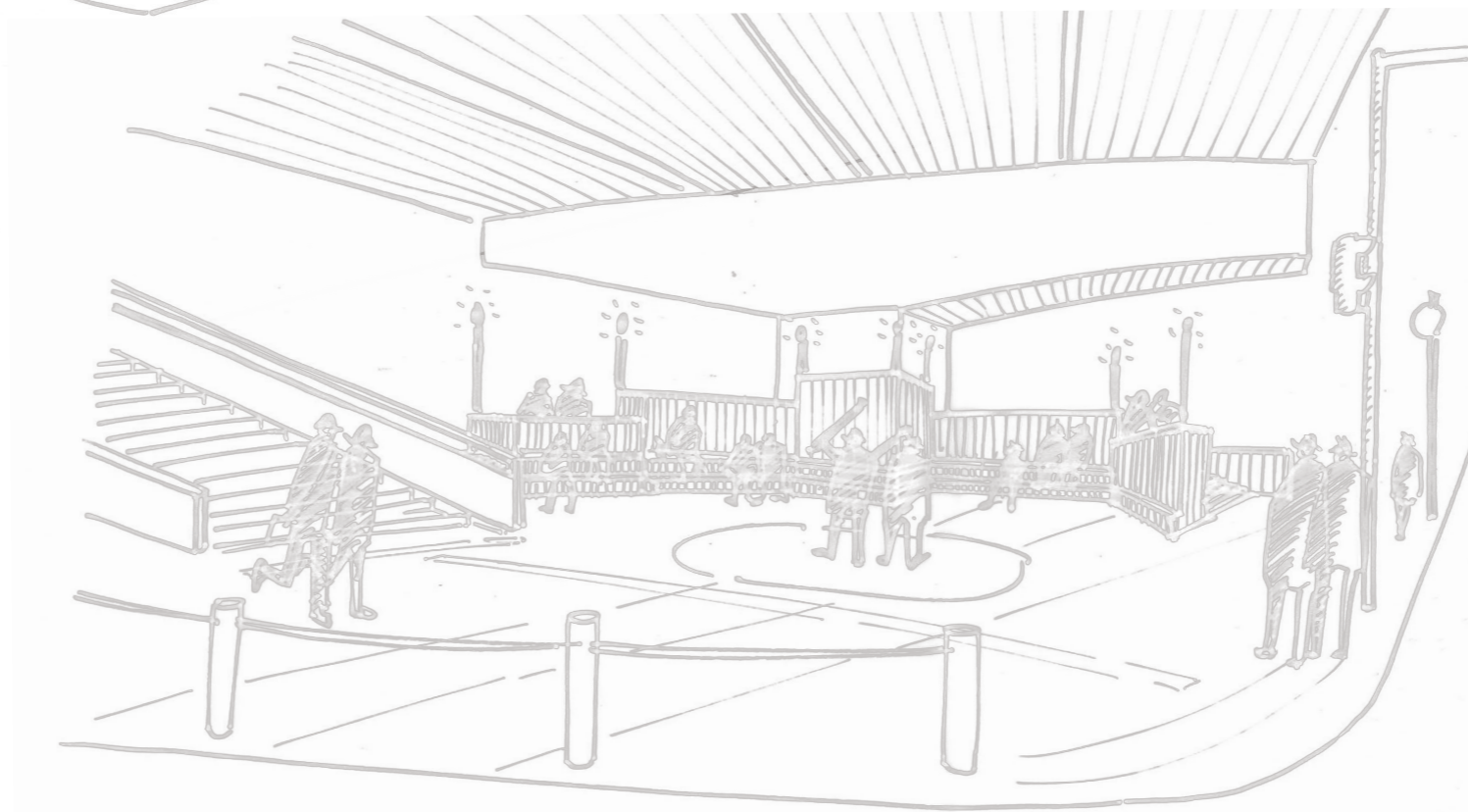
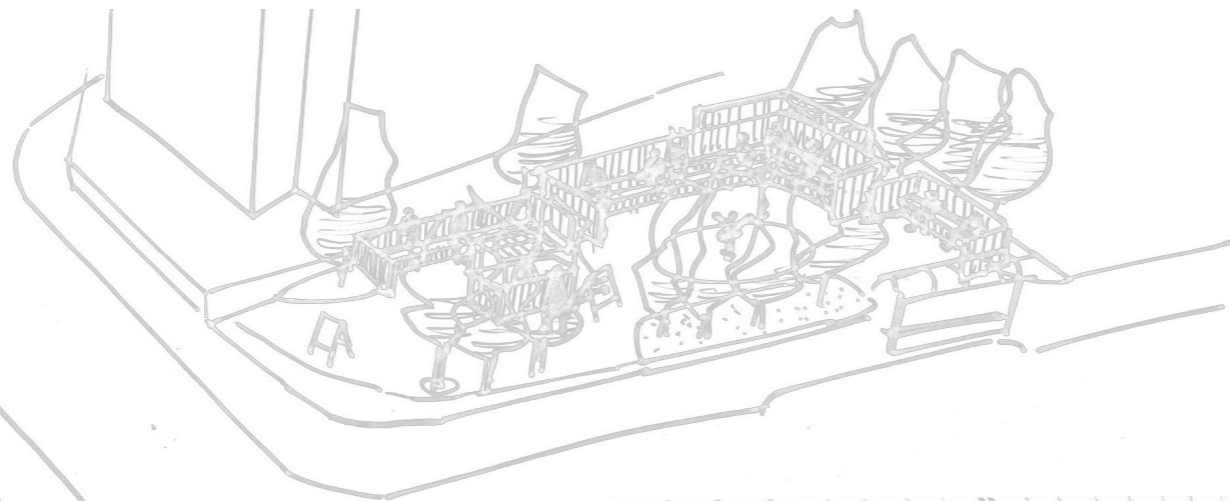
A

灘駅北側広場のイメージ
緩やかな勾配を利用して小さな劇場と
広場全体の大きな劇場をつくります



B

ミュージアムロード北端の広場のイメージ
劇場的空間でありながら、
灘駅北側広場よりも静けさをもった場所です



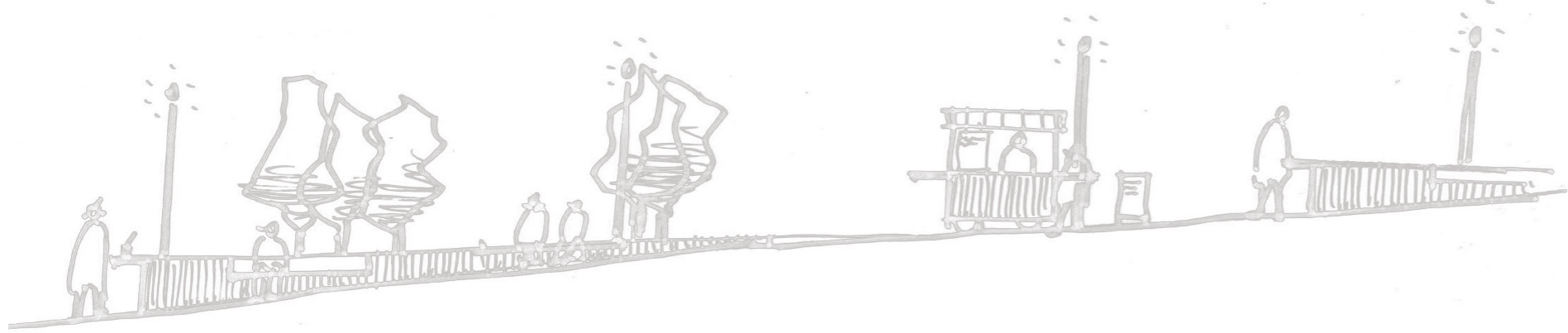
C

高速道路の高架下イメージ
薄暗い雰囲気を利用して、
唐突に現れる劇場空間を生み出します

D

HAT 神戸灘の浜前の広場イメージ
ステージやベンチを追加することで、
既にある劇場的空間構成を生かします



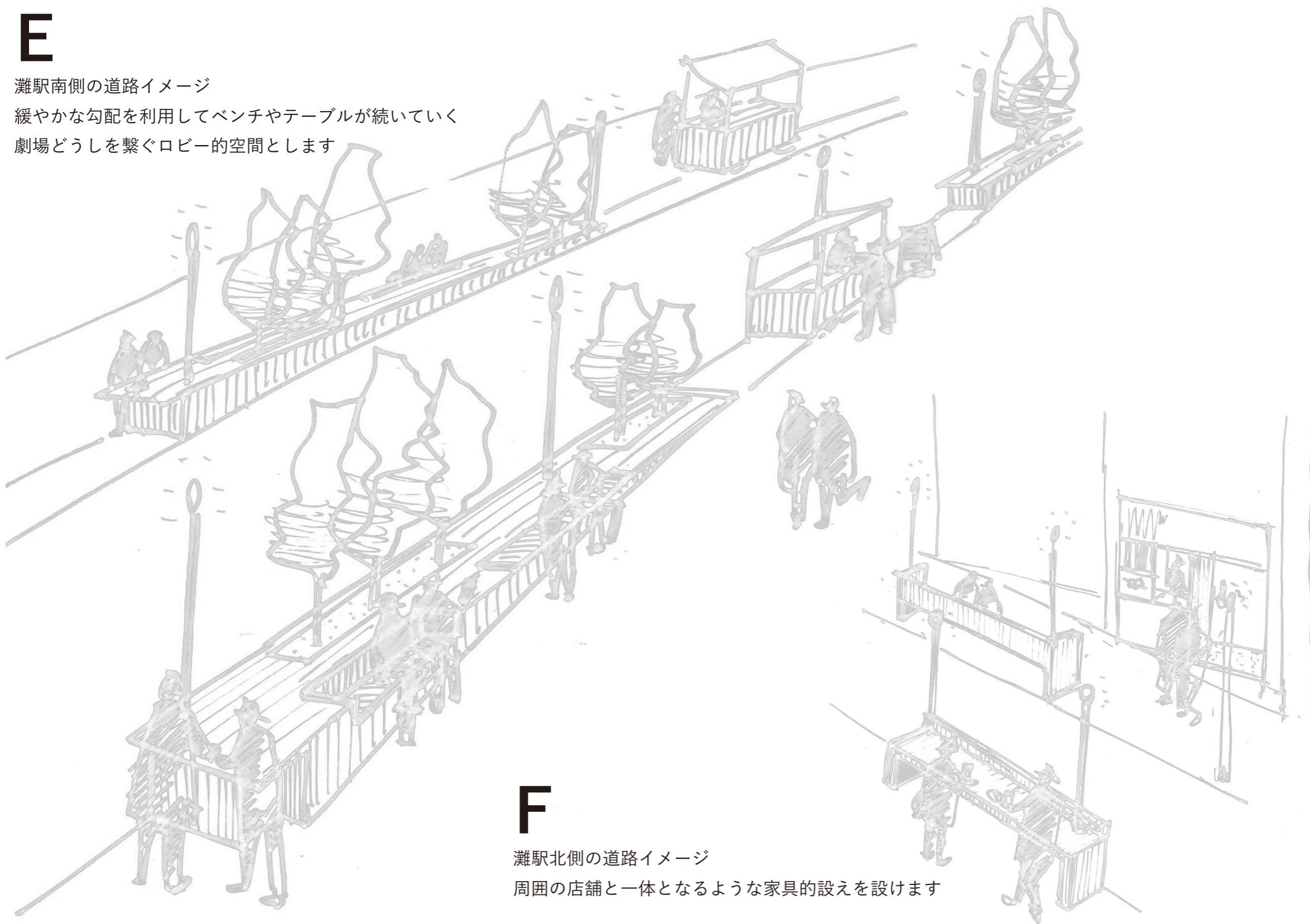


E

灘駅南側の道路イメージ

緩やかな勾配を利用してベンチやテーブルが続いていく

劇場どうしを繋ぐロビー的空間とします



F

灘駅北側の道路イメージ

周囲の店舗と一体となるような家具的設えを設けます

